

陣痛誘発・陣痛促進

【産婦人科診療ガイドライン2026】

○子宮収縮薬投与開始前に確認すべきことは？

CQ412-1 (p246)

○分娩誘発を目的とした頸管熟化・拡張法の注意点は？

CQ412-2 (p248)

陣痛誘発・陣痛促進

○子宮収縮薬投与前に確認すべきことは？

CQ413-1(p252)

○子宮収縮薬投与中にルーチンで行うべきことは？

CQ413-2(p257)

○陣痛誘発・陣痛促進時における子宮収縮薬の注射増量・内服継続時の留意点と、減量・中止すべき状況は？

CQ413-3(p259)

吸湿性頸管拡張材

ラミナリア桿



ラミセル



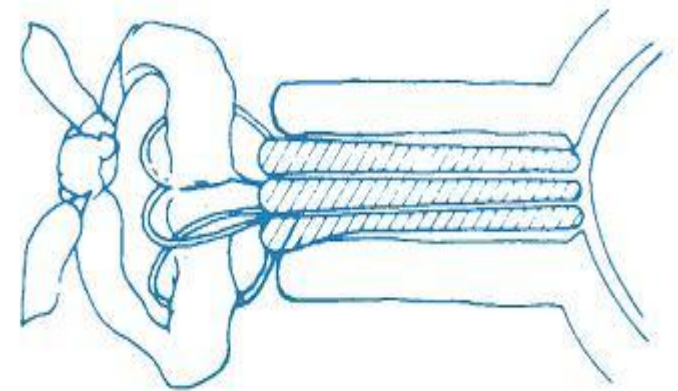
ダイラパン



子宮頸管に挿入し、水分を含むことで膨張する。

膨張することで、頸管が拡張する

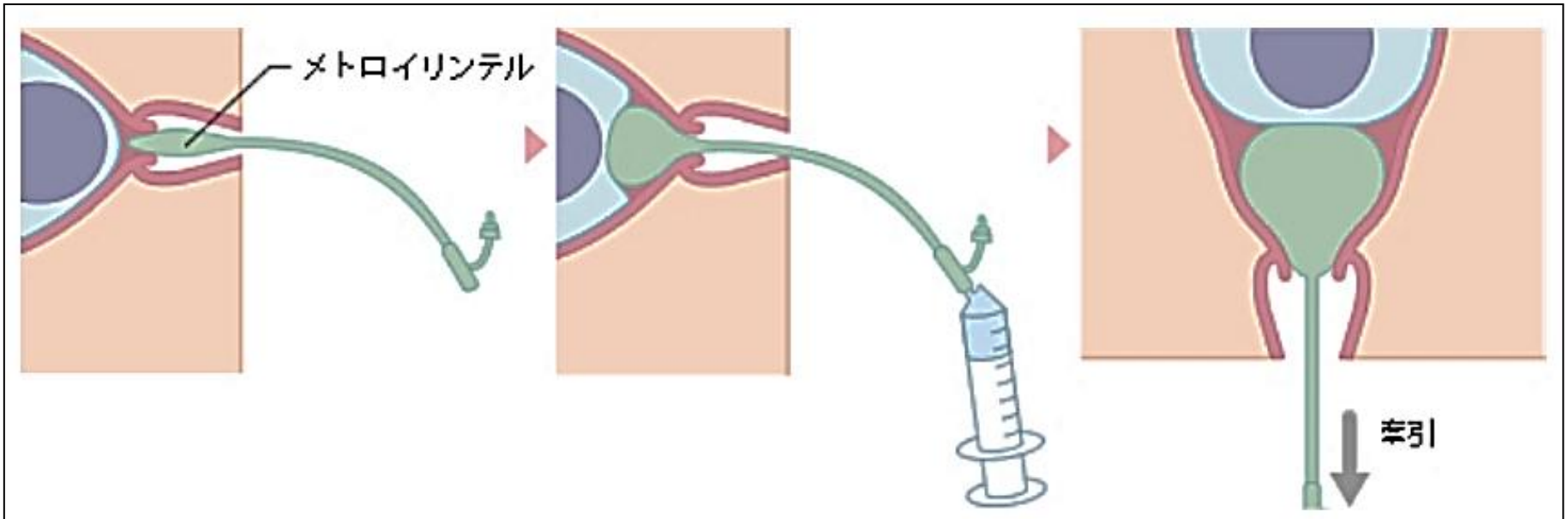
子宮収縮剤の同時併用は行わない。



メトロイリントール



• メトロの挿入方法



メトロイリントール

内容量（40ml以下と41ml以上の2種類がある）

●メトロイリントールのおもな有害事象には、使用中・後の（臍帯下垂）（臍帯脱出）がある。

⇒①（臍帯脱出）を生じるリスクについて十分な文書による説明・同意を得る

②メトロイリントール挿入前に（臍帯下垂）がないことを確認し、破水後ならびにメトロイリントール脱出・抜去後には速やかに（臍帯下垂）や（臍帯脱出）がないことを確認する

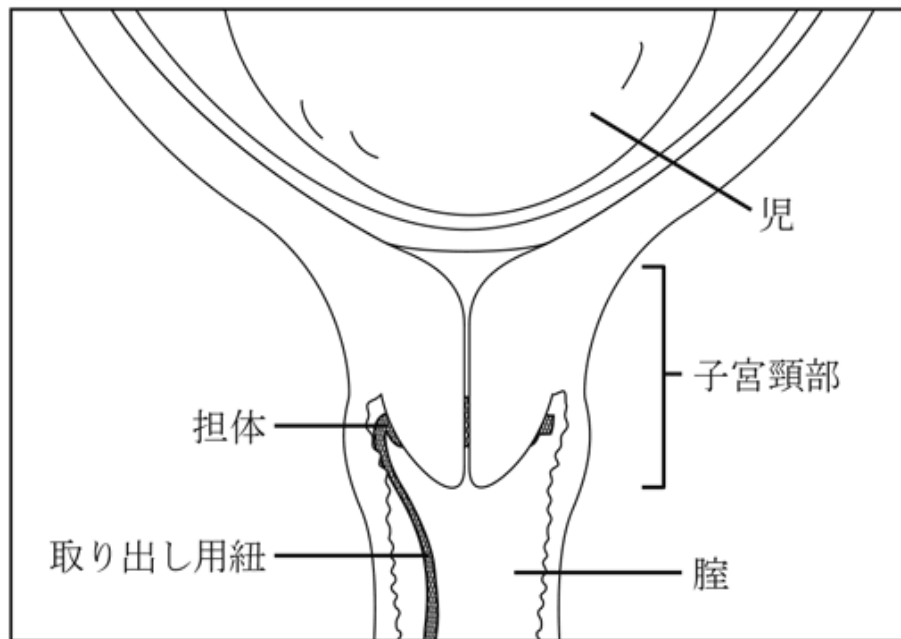
③分娩監視装置によるモニタリング

- ・内容量40ml以下のメトロイリントは、
(陣痛発来時)には速やかに分娩監視装置を
装着しモニタリング
- ・内容量41ml以上のメトロイリントは、挿入
中は分娩監視装置による(連続モニタリング
をする)

④内容量41ml以上の注入量は最大(150)ml 以下である

- メトロイリントールと子宮収縮薬との併用について
 - ⇒メトロイリントール挿入時から1時間以上分娩監視装置による観察を行ったのちに、必要時子宮収縮薬を開始する

プロスタグランジンE₂製剤（膣用剤） （プロウペス）



プロスタグランジンE₂製剤（腔用剤） （プロウペス）

- 妊娠37週以降の妊婦に使用する
- 薬剤投与中は分娩監視装置による連続モニタリング
- 機械的頸管熟化・拡張法・子宮収縮剤の同時使用×
- 薬剤除去のタイミング
 - 頸管熟化完了と判断
 - 3分以内の間隔で生じる痛みを伴う規則的な子宮収縮
 - 過強陣痛やその徴候
 - 投与中の破水
 - 胎児機能不全
 - 悪心、嘔吐、低血圧等の全身性の副作用

プロスタグランジンE₂製剤（腔用剤） （プロウペス）

- 子宮収縮薬を投与する場合は
抜去後1時間以上間隔をあけてから
開始する

子宮収縮剤

- 使用に当たっては適応があり、禁忌がないことを確認する
- 分娩監視装置は（**投与開始前**）から装着し、胎児機能不全でないことを確認する
- 経静脈投与時には、（**輸液ポンプ**）を使用する
- 産婦の血圧と脈拍のチェックは（**2**）時間を目安とする
- 子宮収縮薬投与中は分娩監視装置を連続装着し、分娩第1期は約（**15分**）間隔、第2期は約（**5分**）間隔で胎児心拍数陣痛図を評価する

- 子宮収縮薬の増量および投与については、以下の要件をすべて満たしていることを確認し、判断する。
 - ①子宮収縮が不十分
 - ②胎児機能不全（波形レベル（ 3~5 ）の胎児心拍波形）がない
 - ③子宮頻収縮（ 子宮収縮回数>5回/10分 10分間に5回を越える子宮収縮 ）がない
 - ④静脈内投与では前回増量時から（ 30分 ）以上内服薬では最終投与から（ 1時間 ）以上経過している
 - ⑤最大投与量に達していない

●子宮収縮薬の減量および中止について

- ①重度胎児機能不全（波形レベル5）が出現した場合は、投与を（中止）する
- ②静脈投与中に胎児機能不全あるいは子宮頻収縮が出現した場合は、（減量（1/2以下量への）あるいは（中止））を検討する
- ③プロスタグランジンE2錠（経口剤）内服中に胎児機能不全あるいは子宮頻収縮が出現した場合は以降は（投与しない）

一般名（商品名）オキシトシン（アトニン-0）



- ・5単位を5%ブドウ糖液、リンゲル液、あるいは生理食塩液500mlに溶解
- ・開始時投与量6~12ml/時間
- ・（ 30 ）分以上経てから、有効陣痛が得られるまで6~12ml/時間ずつ増量
- ・最大投与量は（ 120 ）ml/時間

一般名（商品名）プロスタグランジンF2 α 製剤

（プロスタルモンF）



- ・3000 μg を5%ブドウ糖液、リンゲル液
あるいは生理食塩液500mlに溶解
- ・開始時投与量15~30ml/時間
- ・（ 30 ）分以上経てから、有効陣痛が
得られるまで15~30ml/時間ずつ増
- ・最大投与量は（ 250 ）ml/時間
- ・禁忌：（ 喘息 ）（ 緑内障 ）

一般名（商品名）プロスタグランジンE₂製剤（経口剤）
（ジノプロストン）



- ・1回（ 1 ）錠
- ・次回内服は（ 1時間 ）以上あける
- ・1日最大で（ 6錠 ）まで
- ・内服経過中に有効陣痛が発来したら以降の内服は（ しない ）